

EUの開発援助：コロンビア編

EUの途上国への姿勢は、話し合いとプロジェクトのオーナーシップを重視し、リベラルで民主的だと支持されることが多い。

麻薬、ゲリラ、貧困そして国内難民。多くの問題を抱えるコロンビアに対してEUはどのように向き合ってきたのか。その方針と結果について考えてみます。

■日時：5月19日(土) 13:30～15:00

■場所：関西学院大学上ヶ原キャンパス
大学図書館ホール

■講師：福海 さやか氏
(立命館大学国際関係学部准教授)

■司会：市川 顕氏
(東洋大学国際学部准教授／関西学院大学産業研究所客員研究員)

■参加費：無料(一般参加可、申し込み手続き不要)

<講師プロフィール>

バーミンガム大学大学院修士課程修了、ノッティンガム大学大学院博士課程修了。
専門は安全保障論(国際組織犯罪)

セキュリティ・ガバナンス論の脱西欧化と再構築(足立研幾編 ミネルヴァ書房 2018年)、
EUの規範政治(臼井陽一郎編 ナカニシヤ出版 2015年)

Defining and Defying Organised Crime: Discourse, Perceptions and Reality (F.Allum et.al ed.,
Routledge 2010)、Latin American Cocaine Trafficking: US and EU Policy Responses (Ashgate
2008)

